

辻元 清美さん (社民党衆議院議員)

つじもと・きよみ 1960年、奈良県生まれ。早大教育学部卒。在学中、民間の国際交流団体・ピースポートを設立、地球一周クルーズなど24回の航海を企画し、約60カ国を訪問、各地で民間外交を展開した。93年、エイボン女性大賞教育賞受賞。2000年、世界経済フォーラム(ダボス会議)「明日の世界のリーダー100人」に選ばれる。比例代表近畿と大阪府10区から計2回当選。



「私は、父と母の両方の特質を受け継いでいると思ってますけど、母は、あんたは、父親の気質に似てる、と言うんですよ」と辻元氏＝東京・永田町の第2議員会館で

師になるんです。「女も自立していかなくてはいいけない」ということを身近に学びました。父親は、核心を突いたことを言うんですよ。選挙の時でしたが、「清美、自民党と公明党が選挙協力してくれたおかげで勝てる」ちゅうわけで。す。「(両党の政策の矛盾が)はつきりするから。救われた」って。大阪、公明党強いでしょ。周りの人たちは、あー、これであかん、思ってるのに。自分の人生から引き出した哲学みたいなものをボロッと出すんですよ。

しんどい」なんて言うのと、母親は「政治家いやになったら、またリヤカー引いたらいいやん。今日すぐにでも生活できんど」と。要するに「捨て身で行け」ちゅうわけです。

だから、私が一般にいう政治家っぽくなったら一番怒るのが母親です。「あんた、何勘違いしてるの」って。

(聞き手・左藤永次、写真・坂本亜由理)

衆議議員二期目にして社民党の政策審議会長に抜てきされ、直後のテレビ討論で、自民党の大物・亀井静香政調会長と火花を散らしたり、NPO(民間非営利団体)法案の参院での審議を促すため村上正邦・参院自民党幹事長(当時)の自宅に「夜討ち」をかけるなど抜群の行動力を誇る辻元清美氏。「頭より足が先に走っている」たくましいエネルギーをはぐくんだのはどんな家族か。

人にだまされたりね。ギャンブルが好きだったから、要するに、カモにされてたわけです。でも、お金がなくてもゼロから仕事を立ち上げていくタイプ。うまいこといけへんでも、あんまりめげないですね。それと、根無し草の生き方。執着心がなくて、怒らな

いんです。優しい人で、殴られたことないです。私が殴ったことありますけど。(笑い)小さいころは父親が無責任にみえました。いつもいなかたり、親せきに預けられたり。でも父親のこと、好きだったんです。

小選挙区に移った今回の選挙は、私、母親のおかげで勝てたかもしれないと思ってる。三年間ずっと名古屋から高槻(大阪)に通い、朝六時からビラまいて、私の横に旗持って立ってる。人手不足を見るに堪かねて会社を辞めた弟が車運転して、家族三人の「家内工業」でやってたんです。雨降ってても、

選挙応援でみた母親の根性

私、小学校六年生までに

大阪と奈良両方で十九回引越してて、結局、商売に失敗を重ねて、その都度店つぶれて、借金取り来たりとかで、転々としてたんです。

した。父親がただけ仕事で失敗しても、借金ができて、非常に明るくて、前向きだったです。ね。後ろ向きにグジグジして演説したらあかん。言うタイプ(違)ご、根性ある人です。「女も手に職付けなあかん」「男に頼って生きたらあかん」言うて美容

雨が降っても：雨の日は街頭演説、嫌ですやん。母親は「傘さして演説したらあかん。根性出して。雨に負けてどうする」と、しりたくんですよ。

選挙中でも、国会が始まってからでも、「もう

家族話

失敗にもめげず別に、商売、失敗したくってしたわけやなくて

これが結構、名物になっちゃってね。(笑い)

雨の日は街頭演説、嫌ですやん。母親は「傘さして演説したらあかん。根性出して。雨に負けてどうする」と、しりたくんですよ。

選挙中でも、国会が始まってからでも、「もう